

令和7年度 学校経営報告書

八王子市立横川中学校

校長 木暮恵一郎

1. 今年度の取組と自己評価

目指す学校像（下線部は、今年度の重点目標への取組）

(1) 自ら学ぶ意欲を持ち、確かな学力が定着できる学校

①教科指導の充実

- ・授業で少人数指導を生かし、話し合い活動、ICT機器の活用に意欲的に取り組んだ。
- ・全教員が学習のねらいを明確に示し、すべての生徒にとって、わかりやすい授業実践を推進。
- *生徒の授業評価アンケート結果【先生の教え方、説明はわかりやすい】

生徒の肯定的評価 全教員平均 90%

②基礎基本的な学習内容の定着

- ・長期休業中や放課後の学習教室（自主学習強化週間）等で、生徒一人一人の学習課題を明確にし、学習指導、支援を実施した。
- ・八王子市の学力調査結果、検定試験（英検、漢検等）を活用し、学習意欲の向上に努めた。

*学校評価アンケート結果

【本校の特色ある教育活動（少人数授業、学習教室等）を知っている。】

生徒の肯定的評価 94%、保護者の肯定的評価 91%

③ICT教育機器の活用

- ・全教員が学習用端末を活用した研究授業を行い、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図った。
- ICT教育機器を活用した授業実践研究（研究授業・協議会）を年3回実施し、指導主事を招きデジタルを活用したこれからの学びについて理解を深めた。

- ・日常の授業において、学習用端末を活用し、生徒の興味、関心を喚起し、学習内容の視覚化、共有化を図り理解を深めさせた。
- ・各学年、特別活動（宿泊体験学習・校外学習等）後、プレゼンテーションソフトを活用し、探究的な学習活動を実践した。学習の成果はスライドにまとめ共有し、自己肯定感を高めた。

*学校評価アンケート結果

【授業で説明、板書、話し合い活動、ICT機器の活用に取り組んでいる。】

生徒の肯定的評価 93%、保護者の肯定的評価 73%

(2) 自他を尊重し、安全で楽しく、笑顔のあふれる学校

①生活指導の充実

- ・全教員が、『生活指導の手引き』に基づいた一貫性のある指導を継続した。
- ・生徒会主催行事であるニコニコDays（挨拶運動）を定期的実施し、元気よくあいさつができる生徒を育て、集団の一員として、行動できる生徒の育成を進めた。また、ユニセフ募金活動や昼休みの体育館解放等生徒会独自の企画を増やし、自治意識の向上が見られた。

*学校評価アンケート結果【先生たちは、生活指導に熱心に取り組んでいる。】

生徒の肯定的評価 90%、保護者の肯定的評価 79%

②いじめを許さない学校づくり

- ・学校いじめ防止基本方針に基づき、毎週学校いじめ対策委員会を開催した。
 - ・毎学期、いじめ防止アンケートの実施し、初期対応から複数対応の徹底を図った。
 - ・別室指導の場を生かし、気になる生徒、不登校の保護者との定期的な連絡を全学級で、確実に実施した。家庭訪問等、不登校対応巡回教員とも連携した取り組みが行えた。
- 校内委員会、各学年会、職員会で情報共有を徹底した。

*学校評価アンケート結果【いじめのない学校づくりに取り組んでいる。】

生徒の肯定的評価 83%、保護者の肯定的評価 64%

③人権尊重教育の推進

- ・道徳教育で、外部講師を招いた校内研修を実施し、教員の道徳的価値の理解の深めた
 - ・各学年とも、生命の尊さについて深く考える教材を活用し、心豊かな生徒の育成を図った。
 - ・特別の教科 道徳の授業を要として、教育活動全体を通じて道徳教育を充実させた。
- 学年教員がローテーション道徳を実践し、考え、議論する学習を進めた。
- ・各学年とも、22の内容項目に沿い、心豊かな生徒の育成を図った。

*学校評価アンケート結果【自分を大切にし、他の人を思いやり行動することができる。】

生徒の肯定的評価 90%、保護者の肯定的評価 73%

(3) 将来の夢の実現に向けて、生き生きと活動できる学校

①進路指導の充実

- ・各学年とも、計画的に進路学習を実践できた。
- ・はちおうじっ子キャリアパスポートを活用し、自己の変容や成長を自己評価できた。

②特別活動の充実

- ・体育祭、音楽祭を実行委員会方式で実施、生徒の自治意識の向上が図れた。
- ・学校行事、生徒会、学級活動、部活動を通し、感動と喜びが得られる教育活動を展開できた。

③特別支援教育の推進

- ・校内委員会を定期的で開催し、特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた教育を進めた。特別支援教室との連携も進めた。

巡回指導教員と連携し、個別指導計画に沿い適切な支援を行った。

・特別支援コーディネーターを中心に、巡回指導教員、巡回相談心理士から適切な助言を受け、連携型個別指導計画を作成した。

*学校評価アンケート結果【特別支援教育取り組み】

保護者の肯定的評価 43%、わからない 46%

(4) 家庭、地域と連携し、信頼され、開かれた学校

①開かれた学校づくり

- ・毎日、ホーム&スクールを更新し、スマートフォンで気軽に保護者が閲覧できるように、広報活

動を推進した。ホームページによる情報発信も並行して行った。

・今まで通り、紙ベースでも、学校だよりや学年、学級だより等を発行し、学校の生活の様子を周知した。

＊学校評価アンケート結果【学校だよりやホームページ等で適切に情報提供している。】

1学期肯定的評価 95%、2学期肯定的評価 88%

道徳の授業（道徳授業地区公開講座）や進路指導（進路説明会）の内容を広く保護者に伝えることができた。

②家庭、地域との信頼関係構築

・会計マニュアルに基づく私費会計の組織的な進行管理を行った。

・各活動の目的を明確にし、実施後、速やかに成果と課題の検証を行うことで、計画的な学校評価を行った。

③地域運営学校の推進

・地域運営学校として、学校運営協議会を通じた地域との連携を推進した。

・青少年対活動との連携を図り、とくに、地域清掃に協力できた。

・横川小学校と目指す学校像を共有し、9年間を見通した教育指導を展開した。

青少年対活動と連携を図り、地域行事（お祭り、地域清掃）に協力することができた。

クリーンデー（年間3回）はすべて予定通り実施し、小中併せて多くの生徒、教職員、地域の方が参加し、地域社会に貢献する気持ちを醸成した。

＊学校評価アンケート結果

【横川小と一緒に行う取組（生徒会サミット、地域清掃など）を知っている。】

生徒の肯定的評価 78%、保護者の肯定的評価 96%

2. 次年度以降への課題と対応策（下線部は、次年度の重点目標）

①教科指導の充実

少人数指導を効果的に進め、生徒の理解や習熟度に応じたきめ細かい指導の充実を図る。
ICT教育機器をさらに効果的に活用することで、生徒の主体的・対話的な活動を促進する授業づくりを推進する。

TOKYO GLOBAL GATEWAYが提供する体験型英語学習を全校体制で行い、生徒たちのスピーキング力・学習意欲の向上に努める。

②基礎基本的な学習内容の定着

学力調査結果、検定試験（英検、漢検等）を活用し、生徒一人一人の学力を把握する。
自主学習週間や長期休業中等に補充授業を実施する。

③特別支援教育の充実

特別な支援を必要とする生徒の実態を把握し、個に応じた教育を進める。

特別支援教育コーディネーターを中心に、巡回指導教員、巡回相談心理士との連携及び特別支援教室専門員を活用し、適切な支援を行う。